

進化する、住民による

まちづくり

まちづくりセンター
自主運営二周年の
元町地区を訪ねる

地域では、みんなが安心して快適に暮らしていけるよう、住民の手でさまざまなまちづくり活動が行われています。今回は、住民自らがまちづくりセンターの運営を行う東区・元町地区に着目。活動を支える二人へのインタビューを通して、より良い地域をつくるヒントを探ります。

このページに関する
お問い合わせは
市民自治推進課 ☎211-2253

まちづくりセンター(まちセン)とは？

まちセンは、市内に87カ所。町内会やボランティア団体などの地域団体の連携を深めたり、情報提供を行ったりすることで、地域のまちづくりを支援しています。住民票などの諸証明の取り次ぎも行います。

例えば、こんなときはまちセンへ

子育てで悩んでいます

地域のイベントが盛り上がらなくて困っています

地域の子育てサロンを紹介。また、民生委員などを通じ相談に乗ります

地域内外から協力してくれる団体や人を紹介するなど、改善策を一緒に考えます

自主運営という選択

通常のみちセンは、市職員が所長となり運営しています。しかし、平成20年から、住民自らが所長や職員として運営を行うまちセンが登場。現在、7カ所で住民による自主運営が行われています。市からまちづくり活動の資金として地域交付金などが支給され、まちセンを拠点に住民が地域の実情に合ったまちづくりを展開しています。



元町ふれあい祭り

子どもからお年寄りまで大勢の住民でにぎわう元町一のお祭り。ゲームや昔遊びなど住民の創意工夫がいっぱい。

インタビュー

地域の住民が連携を深め、活動がまち全体に広がる

地域を良くするため、自主運営を決定したそうですね。

島田会長（以下、島田）

はい。自主運営をしませんかという市の呼び掛けがあった当初は、「まだ早い」「仕事が増える」などいろんな声がありました。そんな時、当時のまちセン所長の助言で、地域で勉強会を開きました。そこから前進しましたね。

星事務局長（以下、星）

以前から元町では、町内会や学校などの地域団体で「子どもはばたき会議」を結成し、子どもを不審者から守る活動をしていました。勉強会を始



元町まちづくり協議会会長

しまだ こうぞう
島田 孝三郎
さん

元町のさまざまな地域団体にかかわり、住民から厚い信頼を集める。

や活動の資金として地域交付金が出ますが、それを地域のためにどう有効に活用していくかが重要です。

島田 具体的な活動は、協議会の三つの部会で決めています。例えば、子どもの行事を企画するときは、子ども部会でどうしたら喜ばれるもの

果が生まれていますね。

島田 ごみでも除雪でも何か課題があったら一緒に取り組もうという連帯意識が強くなりました。最近では、住民自ら良い情報を見つけてきては、





子育てサロン

年に2回開成小学校でも開催。
小学生と親子がふれあう。



高齢祝賀会

札幌市とまちづくりの連携協定を結ぶ北大落語研究会の学生による寄席を開催。
身体の不自由な高齢者はタクシーで送迎する。



もちつき大会

今年は3カ所で開催し、総勢413人が参加。
住民の発案で獅子舞も初登場した。



協議会の話し合い

住民同士で議論しながら、さまざま
なアイデアを出し合う。



地引き網体験

石狩浜で漁師と地引き網漁を体験。子どもに
一番人気の行事で、今年は122人が参加。

元町地区の概況

- ・人口 26,450人
- ・世帯 14,043世帯
- ・高齢化率 17.5%
(平成22年7月1日現在)



元町まちづくりセンター



平成20年10月、市内で初めて住民による
自主運営を開始。

運営主体元町まちづくり協議会。事業は、3
つの部会(住みよいまちづくり、子ども及び
青少年、高齢者及び福祉)で企画。

元町のビジョン「お年寄りが笑顔で暮らせる
まち」「子どもたちの元気な声がひびくまち」
「いつまでも暮らしたいと思えるまち」

所在地東区北20東20 ☎781-5375

島田 「元町をどんなまちにしたいか」と話し合いを続ける中で、まちのためにならやってみようと連帯感が出てきました。そして、「地域の自立と共生で実現する、ふれあいのある安心・安全なまちづくり」をテーマに元町のビジョンを策定。平成二十一年に、町内会や商工会、学校、福祉関係など地域の七十四団体で「元町まちづくり協議会」を立ち上げ、自主運営をスタートしたんです。

星 立ち上げ前後は、協力を求めて地域を回り、さらに会議の連続で。忙しかったですね。**住民がまちセンの職員となり運営しているのですね。**

星 わたしを含め元町の住民五人で切り盛りしています。市から自主運営のための経費

める際、そのつながりが下地になりました。

星 日ごろから子どもと接し、専門的な知識を持つている児童会館や子ども会の人も参加しているの、アイデアが次々に出てくるんですよ。

島田 これまで、地域のことは連合町内会の執行部だけで決めることが多かったのです。しかし、協議会ができてからは、そこでもいろいろな組織の人と情報交換ができ、住民のニーズに応える活動ができてきたと感じています。

協議会ができたことで、地域内の連携が深まり、よい効



元町まちセン事務局長
星 正博さん

長年、町内会活動に携わり、自主運営開始時から事務局長を務める。

住民の力でまちが変わる

元町の例からも、さまざまな住民が力を出し合い、協力してまちづくりに取り組むことで、地域はより暮らしやすく豊かになっていくことが分かります。こうした市民自らが取り組むまちづくりがさらに広がっていくよう、市はこれからも支援を続けていきます。

自分たちもやりましよう」と提案してくることも多いですね。

星 住民が平等に恩恵を受けられるようになったのも良い点です。元町には二十四の町内会がありますが、世帯数は大小さまざま。例えば、もちつき大会は大きい町内会ではやっていましたが、小さい町内会では人もお金も足りず開催できなかったのです。昨年からは協議会主体で開催することで、小さな町内会の人も参加できるようになりました。地引き網体験などほかの行事も、参加者が元町全体に広がり、大変喜ばれています。

島田 「まちを良くしよう、元町のみんなに喜んでもらう」という目的に向かって、地域みんなが力を合わせて取り組む。そうした本来のまちづくりが実践できてきたと感じています。